

○事業所名	児童発達支援事業所ぶりんぐ音更		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 40
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の行動記録を基に園やご家庭でのお子様の様子を分析し、適切な行動の定着に効果的な関わり方について助言を行っている。	・ABA(応用行動分析)に基づいてお子様の行動を分析し、不適切な行動を適切な行動に置き換えるために効果的な対応について、理論に沿ってご説明や助言を行います。 ・定期的に知能検査を行ってお子様の特性を掴み、得意なことや苦手なことを検査結果を基にご説明します。	・保護者様がお子様の療育を見学する機会をより一層充実させ、事業所内でのスタッフの関わり方を実際に見ていただき、ABAに基づく関わり方とはどういったものなのか、より理解を深めてもらいます。
2	日常生活のニーズと児童発達支援ガイドラインの5領域を照らし合わせて児童発達支援計画を作成し、日頃からその計画を重視して療育を行っている。	・毎回の所長と保護者様との面談や担当スタッフからの療育終了時の活動報告にて、お子様の現段階での課題や必要なスキルを見極めます。そのうえで児童発達支援ガイドラインの5領域に沿って児童発達支援計画を作成し、日頃から全スタッフで共有しつつ療育を行います。	・前期児童発達支援計画の作成時にお聞きしている本人や保護者様の願いを、必要に応じて後期計画作成時にも確認します。長期目標という文言にとらわれすぎず、その時々で利用者様のニーズに答えられるよう努めます。
3	お子様の特性や発達段階を理解し分析したうえで、現段階で必要なスキル獲得のため、柔軟に課題を設定できる。	・毎回の所長と保護者様との面談の中で、日常生活での困り事や悩み事について相談に乗ります。 ・担当スタッフからの療育終了時の活動報告にて、お子様の特性や発達段階を保護者様と共有します。個別療育が中心のため、保護者様の希望を基にお子様に必要な課題を柔軟かつ迅速に設定し、実施する事が可能です。	・同年齢で状態の似ているお子様達の療育時間を合わせ、小集団で活動する時間を取り入れる事で、少しずつ集団を意識して動く練習を行います。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の関わりを促す父母の会や研修会を行っていない。	・療育時に毎回所長と保護者様との面談、担当スタッフから保護者への活動報告の時間を設けており、個別に助言を行っているため、改めて研修会を実施する機会はありませんでした。	・保護者様の希望を確認しつつ、研修会や父母の会の実施を検討いたします。
2	ホームページやSNS等での情報発信の頻度が少ない。	・3カ月に一度の頻度でお便りを発行し、ホームページにて掲載・手渡しにて配布しておりますが、SNSが未開設のため日頃からの情報発信は行っていません。	・お便りの更新頻度、SNSの開設を改めて検討いたします。
3	事故防止マニュアル等の周知が弱い。また、事故発生時の流れの説明が甘い。	・マニュアル等はすべて作成してありますが、保護者様の手に取りやすい環境に配置はしていませんでした。 ・療育には保護者同伴でお子様にお越しいただくため、事故発生時にも速やかにご報告が可能であるとの考えから、事故発生時の対応について力を入れてご説明する機会は少なかつたように思います。	・マニュアル等は、保護者様が手に取りやすい環境にて保管させていただきます。 ・改めて、万が一事故が起きた時の対応についてご説明させていただきます。